

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	蔬菜園芸各論					授業形態		講義		
科目コード	710052	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	陳 蘭庄								ICT活 用	○
授業概要	蔬菜園芸総論を履修することを通して、蔬菜（野菜）そのものの本質と蔬菜園芸学そのものの真髄について、全般的に理解したことを基に、本講義では、個々の野菜（類）を分類して、様々な視点から解説する。例えば、遺伝資源の視点から、起源、来歴、変遷、帰化などのファミリーストリーについて、栽培学的な視点から、作型、生理生態、環境要因などについて、食生活の視点から、収穫物の取り扱い、食用器官などについて、育種学的な視点から、品種改良、大量増殖・繁殖などについて、それぞれの野菜類から代表的野菜を1ないし2種類取り上げて、詳細に解説する。実際の栽培・生産上の問題点と対策などについても学ぶ。 中国河北省農林科学院経済作物研究所にて、河北省蔬菜遺伝資源の探索、収集、調査、評価および「河北省蔬菜品種誌」の編集に携わった。科学技術特別研究員として農林水産省農業生物資源研究所と九州農業試験場にてアフリカから収集してきたイネ科牧草を用いてアボミクスシス性特異的遺伝子のクローニングとその構造解析を行った。現場で培ってきた遺伝資源植物の扱い方や、苦労話、利用価値、重要性などについて、リアリティをもって学生に伝えたいと考えている。									
関連する科目	履修前に植物資源科学、園芸生産環境実験実習Ⅰ、蔬菜園芸学総論などを、履修後は園芸生産環境実験実習Ⅱ、各分野の専門科目を、それぞれ学習することを進める。									
授業の進め方 と方法										
授業計画 【第1回】	第1回 果菜類、葉菜類、豆類の分類と特徴 （関連分類に1～2種の野菜をもって、その来歴、品種の変遷、作型と生理生態などについて解説する）									
授業計画 【第2回】	第2回 キュウリ （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第3回】	第3回 トマト （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第4回】	第4回 イチゴ （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第5回】	第5回 メロン （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第6回】	第6回 スイカとカボチャ （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第7回】	第7回 ナス類 （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第8回】	第8回 豆類 （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第9回】	第9回 レタス・サラダナ・セルリー・ハナヤサイ・ブロッコリー （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									
授業計画 【第10回】	第10回 キャベツ・ハクサイ・ホウレンソウ・ツケナ類 （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）									

授業計画 【第11回】	第11回 ネギ・ニンニク・ニラ・ワケギ・他ネギ類 （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）
授業計画 【第12回】	第12回 タマネギ・アスパラガス （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）
授業計画 【第13回】	第13回 ダイコン・ニンジン・カブ・ゴボウ （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）
授業計画 【第14回】	第14回 イモ類・レンコン （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）
授業計画 【第15回】	第15回 香辛菜類と菌類 （来歴、品種の変遷、作型と生理生態）
授業の到達目標	野菜は食生活において毎日食卓に欠くことのできない最も重要な食材の1つである。農業生産においても、米と並ぶ重要な品目であり、特に野菜の生産額は農業分野の品目別の中で重要な位置にある。そこで、本講義では、野菜を学問として取り上げ、実際の栽培・生産上において、それぞれの野菜類に纏わる品種の来歴、作型、生理生態、収穫物の取り扱い、食用器官、品種改良などについてより詳細に学ぶことを目標としている。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	授業をスムーズに行うため、授業の事前予習が必要となる。事前に毎回配った資料等を中心に学習すること。それでも足りない部分があれば、図書館やメディアなどを利用して勉強することを勧める。事前の勉強する時間は30分くらいあれば考える。
授業時間外学習【復習】	基本的に数回小テストを行うため、授業の事後の復習が必要となる。毎回配った資料等を中心に加えて、授業の中でメモした内容を学習すること。それでも足りない部分があれば、図書館やメディアなどを利用して勉強することを勧めます。事後の勉強する時間は30分くらいあれば考える。
課題に対する フィードバック	小テスト、最終試験は評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	小テストを(4～5回)定期的に行う。小テストの内容は前回授業で習ったものとする。 評価方法：小テストの平均点数は30%、本試験の点数は70%とする。あわせて100点とする。
テキスト	新編 野菜園芸ハンドブック 西貞夫 監修 株式会社 養賢堂（テキストの購入は必要ではない。） 随時、事前に関係資料のプリントを配布する。
参考書	やさしい園芸セミナー図解野菜 佐藤文夫 著 農業図書 野菜のはなし I, II 西 貞夫 著 技報堂 日本の野菜 青葉高 著 八坂書房 世界の野菜 高橋和彦 著 養賢堂 野菜の起源と分化 藤枝国光 著 九州大学出版会 野菜の生態と作型 山川邦夫 著 農文協
備考	